

**編集後記：**気象レーダーには、しばしば昆虫や鳥、蝙蝠といった空中を移動する生物が映ることがある。このような生物を始めとした非降水エコーはノイズとして扱われ、気象庁の一般向けのレーダー画像からは、降水と区別して除去されている。しかし、このレーダーに映った生物エコーを用いて、対象生物を生態学的観点で研究する分野があるらしい。最近知ったのだが、radar aeroecology と呼ばれる研究分野だそうだ。生物好きのレーダー担当としてはたまらない。

「天気」には新用語解説のコーナーがある。対象となる用語は、編集委員らが候補となる用語を持ち寄って、採否を議論し、採用されたものがそのコーナーで専門家により解説される。過去に新用語として採用されたものを見ると、新たに整理された現象や概念の名

前、新しい解析手法や観測データというのが多い印象だが、新たな研究分野の名前というのはこれまでにない。Radar aeroecology は生態学分野では比較的注目度が高いということもあり、新用語解説に打って付けかと思われる。しかし、国内の研究例はほとんど聞かず（論文は CiNii 上、1つもない）、日本語で解説可能な著者を探すのは、なかなか難しいかもしれない。新し過ぎて新用語解説に載せられないというのは、皮肉が過ぎるので、需要さえあれば、生態学分野の専門家の方々含め、照会させていただきたいところである。そもそも気象学会の範疇を超えていないことが前提ではあるが。

(梅原章仁)